

ブラジル国公立大学における大学入学枠（クォータ制）導入の是非をめぐって
鈴木茂（東京外国語大学）

1970年代末に始まるブラジルの民主化過程において、黒人、先住民、女性、同性愛者などのマイノリティーの社会運動が大きな役割を果たし、その成果は1988年憲法に反映されている。この報告では、ブラジルの連邦政府および各州政府によって導入された、黒人の権利拡大と地位向上をめざす諸政策、とりわけ国公立大学の入学枠（クォータ制）の導入をめぐる議論を取り上げ、この制度の導入によって明らかになったブラジル社会の「寛容と不寛容の境界」を検討したい。あわせて、グローバル化がマイノリティーの権利獲得運動に与えた影響について指摘したい。

国公立大学における黒人の入学枠の導入が巻き起こした論争は、従来、「寛容性」の証拠として自明視されていた「混血国民」の論理の矛盾を浮き彫りにした。この制度は、黒人運動の強い要求で実現したものであったが、黒人は「混血」を通してすでに社会的統合が実現されているとする支配的な考え方に対し、不平等な人種的秩序を温存・補強するかたちでの統合のされ方そのものへの異議申し立てであったと言える。この制度への激しい反発からは、ブラジル版カラーブラインド論である「混血国民」の論理が、これまでいかに当然視されていたかを物語っていると言えるであろう。同時に、あらたなカラーラインを創造しようとする急進的な黒人運動の側には、自尊心や帰属意識の根拠とする文化の本質化という危険がつきまとっている。

テーマセッション②「多言語・多文化社会における「境界」をめぐる寛容と不寛容」
ブラジル国公立大学における大学入学枠（クォータ制）導入の是非をめぐって
鈴木茂（東京外国語大学）

I はじめに

1. ブラジリア大学（国立）入学試験での出来事（2007年）

【写真1】ニュース週刊誌『ヴェジャ *Veja*』表紙（2007年6月6日発行）

（一卵性双生児のアレックスとアランはクォータ制度で白人と黒人に判定された。人種が存在しないことを示す、新たな証拠だ）

【写真2】日刊紙『コレイオ・ブラジリエンセ』1面（2008年8月4日発行）

（賞賛とともに合格。クォータ制度入学学生に初の卒業証書授与が始まる。）

2. 「混血社会」における人種差別の撤廃

I ブラジルの民主化と差別撤廃政策

1. ブラジルの民主化と社会運動

2. 「新しい市民権」

・1988年憲法「市民の憲法」

・「国家人権計画」(PNDH)、1996年 <資料(1)>参照

黒人の地位向上のための「積極的差別」、「アフーマティヴ・アクション」
人種平等推進庁(SEPPIR)創設、2003年

II 教育とアフーマティヴ・アクション

1. 人種面での教育格差（応用経済研究所 IPEA 調査〔鈴木 2006〕）

・人種別就学年数の伸び（1992～2001年）

白人 5.9年 → 6.9年

黒人 3.6年 → 4.7年

全体 4.9年 → 6.0年

・人種別就学率の伸び（1992～2001年）

	基本課程（8年）	中等課程（3年）
白人	87% → 95%	27% → 51%
黒人	75% → 92%	9% → 25%
全体	81% → 93%	18% → 38%

2. アファーマティヴ・アクションをめぐる内外の議論

- ・国際セミナー「多文化主義と人種主義—今日の民主主義国家におけるアファーマティヴ・アクションの役割」(法務省人権局主催、ブラジル、1996年)
- ・ダーバン会議(反人種主義・差別撤廃世界会議、2001年) <資料(2)>

3. 「アフリカ系ブラジル人の歴史と文化」の必修化(法律10639号、2003年)

【写真3、左】「民族・人種関係教育およびアフリカ系ブラジル人・アフリカ人の歴史・文化の教育のための全国カリキュラム基準」(教育省、2004年)

III 大学におけるクォータ制度

1. クォータ制度導入大学

- ・州立：リオデジャネイロ州立大学(2001年導入決定)、バイーア州立大など
 - 国立：ブラジル大学(2003年導入決定、2004年第2期から)、サンカルロス連邦大学(サンパウロ州)【写真3、右】など
- 2007年現在で全国で30大学を超える。

2. クォータ制度への反対論

- ・サンパウロ大学(USP、州立)【写真4】
「能力主義」と「社会的包摂」<資料(3)>
- ・メディアにおける反対論
「生物的人種」の否定と「社会的人種」の存在の混同
『ヴェジャ』<資料(4)>
「混血」の賞賛
ピーター・フライ <資料(5)>

IV おわりに：大学におけるクォータ制度導入をめぐる論争から見えるもの

- ・雇用機会と教育機会の違い
- ・カラー・ブランインド社会における「黒人」の可視化
- ・人種関係の家父長主義的秩序

家父長主義的・権威主義的社会における「寛容」

参考：ロベルト・ダマタ “Você sabe com quem está falando?”

(Do you know who you're talking to?)

<資料>

(1) 国際セミナー「多文化主義と人種主義—今日の民主主義国家におけるアファーマティヴ・アクションの役割」開会演説 (カルドゾ大統領)

「ブラジルは多人種国家 (nação multirracial)であり、それを誇りにしています。なぜなら、この文化的・民族的(étnica)多様性は今日の世界にとって根本的なものであるからです。(中略)かつてブラジルには、多くの人々が、この多様性ゆえに、ブラジルには〔人種〕偏見はないと言って満足していた時代がありました。しかし、それは正しくはありません。何度も言及してきた話ですが、昔、外務省がリオにあった頃、私が出席した外務省主催のある会議を忘れたことはありません。私は社会学の助手で、ブラジルの黒人と白人の関係をめぐる問題の専門家であった二人の傑出した社会学者、フロスタン・フェルナンデス、ロジェ・バステード両教授の下で働いていました。おそらく少し単純すぎたのでしょう、ブラジルには実際に偏見があると行ってしまいました。当時、それを言うことは、ブラジルを攻撃するのと同じでした。司会者は大変偉い人物でしたが、私の発言に気分を害し、後で、退席を求めようと考えたと私に打ち明けてくれました。それから、ブラジルには肌の色への偏見があるという私の発言に不愉快になったと漏らしてしまったことをとり繕うために、いくつかの個人的なお褒めの言葉をいただきました。

これは1950年代の話です。したがって、大昔のことで、多くの皆さんが生まれてもおられなかったでしょう。ただし、あの頃は、こうした違いが差別として現れない以上、われわれはブラジルが楽園であると考えていたのです。ところが、当時から現在までの間に多くのことが変化しました。われわれには、思っていたような寛容な資質がないことが分かってきたのです。逆に、多くの不寛容の側面があり、それらはほとんど常に、われわれにお馴染みの家父長主義のパターナルな伝統によって隠されているのです。また、われわれは距離や躊躇をあからさまに表さず、常に曖昧にしてしまいます。そして、こうした不寛容はしばしば何気なく示され、ある意味で偽善的な態度となります。」(Souza 1997: 13-14) (下線は引用者、以下同じ。)

(2) ダーバン会議「行動計画 第99項」

「人種主義、人種差別、外国人排斥および関連のある不寛容と闘うことは、国家の主要な責任であることを認識する。したがって、多様性、平等、社会正義、機会均等およびすべての人々の参加を促進する国内行動計画を策定または入念に作成することを国家に奨励する。とりわけアファーマティブ・アクションと戦略を通じて、これら計画は、すべての人が意思決定に効果的に参加して、生活のあらゆる空間で、非差別に基づき、

市民的、文化的、経済的および社会的権利を実現できる条件をつくることをめざすべきである。(以下略) (訳文は『部落解放』2002/502号、284頁による。)

(3) サンパウロ大学の「能力主義」と「社会的包摂」

「この問題〔社会格差〕の広がりと重大性を前に、諸機関や専門家たちの解決策をめぐる立場はさまざまに分かれている。(中略) さらに、状況は非常に重大であるので、唯一の有効な解決策は、民族的(étnicas)・社会的・文化的な不利を抱える集団に対する「クォータ」型のアファーマティヴ・アクションであると考え人々がいる。優遇された集団の排除された集団(黒人、先住民、貧困者、見放された人々など)に対する大きな債務の名の下に、アカデミックな能力を社会的な判断基準の下に置くという急進的な立場である。

サンパウロ大学はこの問題に取り組み、それを克服するのに貢献する責任を自覚している。公立学校における中等教育が提供する教育の特殊事情を入学試験で考慮に入れたり、入学前から入学後にいたるまで、社会的・文化的に不利な志願者を支援したりして、入学条件に関する特別措置を講ずることができるし、講じなければならないと理解している。本学はこれらの措置の限界も認識しているが、同様に、これらが優れた学業成績を上げる可能性の高い志願者が入学するよう、能力という判断基準を堅持すると同時に、入学機会の拡大と民主化への重要な貢献となることも確信している。」(USP 2006: 10)

(4) 『ヴェジャ』(2007年6月6日号)の批判

「ブラジル人を分離し、「人種」に基づいて権利を決めるという企ては、黒人と白人を不平等に扱って憲法を踏みにじるだけでなく、科学的にも馬鹿げたことである。「肌の色を決定する遺伝子は、人間の遺伝子全体の微々たる部分です、3万個のうちのたった6つです」と、リオグランデドスル連邦大学の遺伝子学者マリア・カチラ・ポルトリニ氏は言う。最近、マリア・カチラ氏は、ミナスジェライス〔連邦大学〕の遺伝子学者セルジオ・ペナ氏との共著で、父方の血統で黒人であるブラジル人は、平均するとアフリカ人よりもヨーロッパ人の遺伝子を多く持っていることを示す研究を発表した。一方、セルジオ・ペナ氏は、先週、ブラジルの多くの有名な黒人もまたヨーロッパ人の祖先の血統の濃度が高いことを示す、ブラジル BBC との共同研究の成果を発表した。(中略)
住民の肌の色に関して公式に盲目であるという特権を享受してきたブラジルは、残念ながら人種的憎悪に見舞われる危険にさらされている。」(p.88)

(5) ピーター・フライの批判

「今日大流行りの「多様性」の称揚は、しばしば現実には「人種」もしくはその PC 的婉曲表現である「エスニック *etnias*」の称揚に帰着する。「アファーマティヴ・アクション」と呼ばれる公共政策が、「人種的」不平等を減らすために実施されている。しかし、このような政策は、その受益者に人種的帰属意識を要求するため、人種への信仰が強化される。アファーマティヴ・アクションがどれほど善意に基づくものであれ、その論理的帰結として人種という神話を強化する。アメリカ合衆国や南アフリカ、ジンバブエで見ることができるのは、まさにこの現象であると私は確信している。人種の神話の上に強固に築かれたこれらの社会では、その神話が人種主義撤廃のための戦いにおいて再び舞い戻っている。

ブラジルの場合、状況は別である。遅まきながらの奴隷制廃止と共和国宣言は、「人種」に法的支持を与えなかった。ブラジルの人種主義は社会全体で非公式に続いてきたが、国家が直接行うことはなかった。確かに、人種への信仰はヨーロッパ移民の奨励のような特定の政策に影響を及ぼしたが、市民の「人種的帰属意識」は個人的な意識か、たまに「白」「黒」「黄」「褐色」「先住民」という人種／肌の色を尋ねるブラジル地理統計院(IGBE)の調査員への回答に過ぎなかった。(中略)「人種的」アファーマティヴ・アクションは、「褐色」と「黒」を「黒人」として一括し、事実上、3つの「人種」(「黒人」「白人」「インディオ」)だけのブラジルを生み出した。(中略)アファーマティヴ・アクションは、異なった諸人種からなるブラジルのために異種混淆のブラジルを否定するという効果を発揮する。

(中略)「人種民主主義」は人種主義を隠蔽したり、大衆的な黒人運動の形成を阻害する、民衆を欺く単なる偽物か仮面であるとして嫌悪する正統派とは反対に、私は到達すべき理想、人類学的な意味での神話、すなわち個人の出自や外見が市民的権利と公共財の分配に無関係であらねばならないとする社会的仕組みを考える特別な方法と見る方を選ぶ。」(Fry 2005: 16-17) (斜体は原文のまま)

<参考文献>

- 『部落解放 増刊号』(2002/502号)「反人種主義・差別撤廃世界会議と日本」。
鈴木茂「多文化主義時代のブラジル社会」『世界の労働』第56巻第10号(2006年10月)、43-58頁。
鈴木茂「ラテンアメリカの民主化と社会運動」『歴史評論』No. 697(2008年5月号)、19-33頁。

ADAC-UnB (Assessoria de Diversidade e Apoio aos Cotistas-Universidade de Brasília), 2008a.

Primeira turma de formandos cotistas, 1o sem 2008: relatório técnico de acompanhamento de formandos oriundos do sistema de cotas para negros no vestibular (Brasília: ADAC-UnB).

ADAC-UnB. 2008b.

Portifólio da Assessoria de Diversidade e Apoio aos Cotistas, 2008 (Brasília: ADAC-UnB).

Borges, Priscilla. 2008.

“Eles são primeiros” *Correio Braziliense* (4 de agosto de 2008), Gabrito, pp. 4-7.

DaMatta, Roberto. 1981(1978)

Carnavais, malandros e heróis: para uma sociologia do dilemma brasileiro, 3a ed. (Rio de Janeiro: Zahar).

Fry, Peter. 2005.

A persistência da raça: Ensaios antropológicos sobre o Brasil e a África austral (Rio de Janeiro: Civilização Brasileira);.

Fry, Peter, Yvonne Maggie, et al., eds. 2007.

Divisões perigosas: Políticas raciais no Brasil contemporâneo (Rio de Janeiro: Civilização Brasileira).

Gonçalves e Silva, Petrolina Beatriz, e Valter Roberto Silvério, eds. 2003.

Educação e ações afirmativas (Brasília: INEP).

Maggie, Yvonne e Claudia Barcellos Rezende eds. 2002.

Raça como retórica : A construção da diferença (Rio de Janeiro, Civilização Brasileira).

Ministério da Justiça, 1996.

Programa nacional de direitos humanos (Brasília: Ministério da Justiça).

NEAB-UFSCar(Núcleo de Estudos Afro-Brasileiros-Universidade Federal de São Carlos), s.d. [2008]

Ações afirmativas: afirmando direitos reconhecendo diferenças (São Carlos: NEAB-UFSCar).

SECAD-MEC (Secretaria de Educação Continuada, Alfabetização e Diversidade-Ministério da Educação), 2004.

Diretorizes curriculares nacionais para a educação das relações étnico-raciais e para o ensino de história e cultura afro-brasileira e africana (Brasília: MEC, SEPPPIR).

Souza, Jessé de. ed. 1997.

Multiculturalismo e racismo: uma comparação Brasil-Estados Unidos (Brasília: Ministério da Justiça).

Suzuki, Shigeru. 2007.

“Brasil en la época del multiculturalismo: una polémica en torno a las acciones afirmativas,” *Humania del Sur* (Mérida: Centro de Estudios de África y Asia-Universidad de Los Andes), pp. 73-85.

USP (Universidade de São Paulo), 2006.

Inclusp: programa de inclusão social da USP (São Paulo, Pró-Reitoria de Graduação-Universidade de São Paulo).

Zakabi, Rosana, e Leoleli Camargo, 2007.

“Eles são gêmeos idênticos, mas, segundo a UnB, este é branco e este é negro,” *Veja*, Ano 40-No.22 (6 de junho de 2007), pp. 82-88.